

< 白金標準先物、思惑相場から需給相場へ移行時期・・・ >



(出所：オアシス)

消費者物価指数（CPI）に続き事前予想を上回る生産者物価指数（PPI）を受けて。メスター・クリーブランド連銀総裁やブラード・セントルイス連銀総裁が3月のFOMCで0.5%の利上げに言及したが、バーキン・リッチモンド連銀総裁が0.25%の利上げを支持すると述べるなど過度な利上げ幅が後退し、長短金利は低下するなど為替市場でドル安の動きにNY白金は900ドルを意識して下げ渋っている。

特に価格を予想する上で需要の憶測より、計算できる供給を基に予想する事から、現在の長期に渡り高水準の金利を維持する思惑からリセッション懸念で売られている白金価格は売られ過ぎた域まで届いている可能性は高いと思える。特に3月8日にWPICは第4四半期PGM需給報告と通期需給報告を予定している。また先週には世界第2位のプラチナ鉱山であるアングロ・アメリカ・プラチナは2022年の精製PGM生産量が南アフリカの電力不足で159トンから118トンまで25%減を発表し、第3位のインパラ・プラチナムも6ヶ月間で50トンから45トンへ減少している。またロシアのノリリスク・ニッケルは西側諸国の制裁で2023年のプラチナ生産は10%減少を発表するなどプラチナ生産は絞られた状況であり、見直し相場に移行し供給不足を意識した価格帯へ戻りを見せて来ると思える。

<テクニカル>

白金標準先物の日足をMACDとRCIで見た場合は、MACDではMACDとシグナルが下げ続け、RCIでも短期と長期が-90%以下で推移するなど、依然と弱気の継続を示唆している。ただMACDの下げ渋りとRCIの短期が長期を上回ったことなど基調転換を示す予兆を見せている。また日足が200日移動平均線を下回るなど行き過ぎた値動きに思える。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行ってください。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 2,840,000 円(2023 年 2 月 20 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 37,620 円(2023 年 2 月 20 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間:平日 8:30~17:30)

証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>